

# サイクルトレイン実施にあたってのよくある質問

よくある質問	答え
<p>・どのような方々が利用しますか。</p>	<p>・観光目的では、地域の事情によって異なると思いますが、初心者から上級者まで幅広く想定されます。          ・生活行動目的としても、平日の通勤・通学、土日の買い物などの利用が想定されます。</p>
<p>・鉄道事業者にとってのメリットはどのようなものがありますか。</p>	<p>・公共交通と自転車の連携は、輸送量拡大や利用圏域拡大などのメリットがあると考えられます。群馬県の上毛電気鉄道では、自転車持込者が年間4万人を超えるなど利用促進に効果を上げているほか、駅から離れた郊外型ショッピングセンターに行くために自転車を持ち込んで鉄道を利用する新たな利用者の獲得につながっている事例もあります。</p>
<p>・どんな路線でサイクルトレインが利用されていますか。</p>	<p>・人口の多い都市部と郊外をつなぐ路線におけるイベントや団体臨時列車の運行や、観光路線やローカル線活性化の一環として、主に地方中小民間鉄道事業者や中山間地域の第三セクター鉄道を中心に実施されているサイクルトレインの事例が増えてきています。</p>
<p>・跨線橋や地下通路を渡る必要がある駅や、改札等の通行に支障がある箇所の改修が必要となるのでは。</p>	<p>・エレベーターや構内通路などが利用可能な駅に限定した利用形態だったり、階段横のスロープ設置など簡易な改修を実施したりしている事例があります。</p>
<p>・車両形態によって乗車できる台数に限りがあるし、利用者の多い路線や混雑時間帯の持ち込みは難しいのでは。</p>	<p>・車両の乗車位置の指定、利用可能な列車や、曜日・時間帯の指定、積載可能台数の明示、予約制の活用などを実施している事例があります。</p>
<p>・車両内での自転車の転倒防止対策が不明であり、また、転倒によりけがや物損等が生じた場合の対策が必要となるのでは。</p>	<p>・自転車持込者の自己責任としていますが、車内の自転車搭載場所について、混雑時にも支障をきたさない、立客とも錯綜しないといった、危険の少ない場所を指定するなどの工夫も考えられます。          ・車内での固定ベルト等の貸与を実施している事例もあります。</p>